

四 住みよいくらしを支える

1 ごみのしまつと利用

わたしたちの家から出るごみには、どんなしゅるいがあるでしょうか。また、ゴミの量はどのように変わってきているでしょうか。

むかしは、家からごみが出ると言っても、台所の生ごみやわらくず、木くずなどがほとんどでしたし、その量も少なかったので、あなをほってうめたり、台所からそのまま流したり、川や海にすてたりしていました。

ところが、生活のようすが変わってきたので、家から出るごみの量もひじょうにふえ、しゅるいも多くなりました。これらのごみを、今までのようにすてていたのでは、くさってにおいがしたり、ハエやネズミがふえたりしてこまります。また、食べ物などをつつんであるパックやビニルぶくろ、ビニルひも、プラスチックなどは、もやすと黒いけむりをだして体に^{がい}害も多いのです。ビニルやプラスチック・あきかん・あきびん・そ大ごみ（テレビや冷ぞう庫などのこわれたもの）などは、すてるといつまでもくさらないし、海をよごし、^{きけん}危険です。こうした問題は、どこの地区でもありました。

そこで、人びとは、ごみのしまつについてどうしたらよいか相談しました。役場やほけん所でも、ごみ集めの問題をしんけんにとりあげて相談するようになりました。こうして、わたしたちの村でも、ごみ集めが昭和52年ごろから行われるようになりました。集められたごみなどは、人里はなれた、人があまり行かない場所を切り開き、そこへ、自動車で運んですてるようになりました。

今では、地区の人びとの話し合いで決められた係の人におねがいし

て運んでもらっています。毎週、「ごみすての日」を決め、それぞれの家では、ごみをじょうぶなふくろやはこなどに入れて、決められた時間に道路わきのごみステーションに出しておきます。



ごみステーション

ごみは生ごみと、それいがいのごみに分けてすてます。集められた生ごみはしょうきゃくの機械で燃やしますが、それいがいのごみはそれぞれの地区で決められたごみすて場に集められます。

しかし、家庭で出すごみがふえるにつれて、ごみすて場にすてられるごみもどんどんふえていきます。そのため、ハエが集まったり、カ



生ごみしよりせつ

ラスがつついたりして、
ふえいせい
不衛生になっていきます。また、何かのひょうしに火がついて火事が起こる心配もあります。これからは、いかにたくさんのごみをしまつしていくかが大きな問題です。

自分の地区のごみのしまつや、大きな町や市などのごみのしまつを調べましょう。